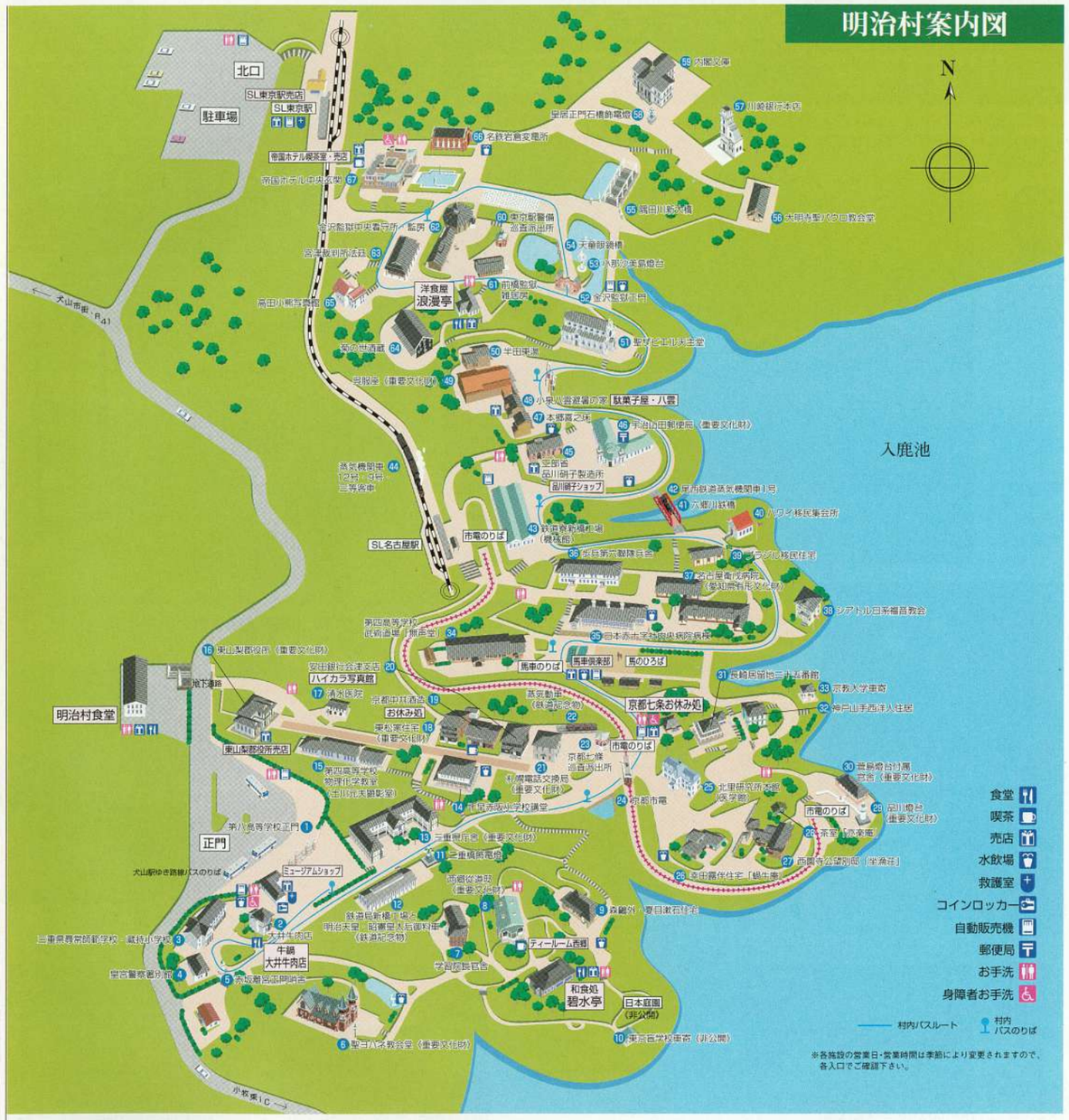
2002 Autumn

明治村だより

秋号 Vol. 29

目次

辞職後の清水義八　菅原　洋一 ……2
清水医院と島崎藤村の小説
『ある女の生涯』　牧野　式子 ……4
秋の明治村―催しものご案内 ……6
日本最古の蒸気自動車がやってきた ……8
明治のくらしよろず体験 ……9
華麗なる宮殿家具 ……9
A La Meiji-mura ……10
明治村写真コンテスト　入賞作品展 ……11



★TOPICS★

明治の味そのままに「明治のあんぱん」登場。

明治5年に新橋駅で初めて売り出された「パン」。
その製法は、ホップ汁とジャガイモからとった天然酵母を使用したふくらみの少ない日本独自のものでした。当時と同じ天然酵母で再現した「明治のあんぱん」。
ぜひご賞味下さい。

明治のあんぱん
　1つ入り120円
　2つ入り200円
販売箇所　ミュージアムショップ
　SL東京駅売店
　駄菓子屋「八雲」

『明治村 だより』　第30号発行のお知らせ

発行時期　平成14年12月（予定）
申込方法　「明治村だより」第30号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

平成14年9月10日発行
「明治村だより」第29号（平成14年　秋）

発　行　博物館明治村
〒484-0000　愛知県犬山市内山一番地
電話（0568）67-0314
◎ホームページ　http://www.meijimura.com
製　作　大日本印刷株式会社

●表紙　今様東京八景　瀧の川乃晴嵐　楊州周延 画

明治のりもの博覧会

11月24日まで開催中

尾西鉄道蒸気機関車1号の機関室搭乗体験

〈尾西鉄道蒸気機関車1号〉
明治30年に造られたアメリカ製の尾西鉄道蒸気機関車１号の機関室に搭乗できます。

新橋・横浜間を走った蒸気機関車12号の動態展示

片道　大人300円
　　小人150円
明治7年に輸入されたイギリス製で、日本最古の機関車のひとつである12号（毎月前半）と、明治45年アメリカ製の9号（毎月後半）が走る！実際にご乗車できますよ。

挑戦!!　明治の自転車 〈馬のひろば横〉

10分 100円
明治に大流行した前輪が大きいオーディナリー型自転車に挑戦！

鉄道記念日　SL重連運転

10月12･13日
動態保存中の蒸気機関車2台を連結運転します。

SL機関士体験

〈要電話予約〉　11月9日・16日　☎0568-67-0314
小学生対象　体験料400円　明治時代に実際に走っていた蒸気機関車の機関士になってみよう。

この他にも京都市電・乗合馬車・レトロボンネットバスにも乗れます。

特別展
「日本最古の蒸気自動車がやってきた」

10月26日～11月24日 〈岩倉ホール・帝国ホテル中央玄関〉
協力：男爵資料館、トヨタ博物館、自転車文化センター
今ではなくてはならない一般的な自転車や自動車がどのように明治時代にもたらされ、現在の姿の礎を築いたかを探ります。
〔主な展示〕
●ロコモビル蒸気自動車 スタンダードスタイルNo.2
●ド･ディオン･ブートン･クワドリシクル
●クレマン原動機つき自転車
（詳しくは8ページをご覧下さい。）

描かれた明治の「のりもの」展

9月14日～11月24日 〈三重県庁舎〉
明治村所蔵の「のりもの」をテーマに描かれた絵画などを展示します。

色えんぴつで描いたローカル私鉄の絵画展

10月5日～10月20日 〈三重県庁舎〉
柔らかなタッチの中に繊細さを表現した絵画展。

市電・SL乗り放題券つき
博覧会お楽しみガイド

大人700円　小人500円　受付・販売／正門・北口

「明治のりもの博覧会」を見学しながらクイズを解いたり、スタンプを集めるワークシートです。市電・SLの一日乗車券と、馬車・バス・馬車道アイスなどの割引券がついている、とってもお得なガイドブックです。

紅葉（あき）の部

「明治天皇御料車」の内部特別公開

〈鉄道局新橋工場内〉
明治村の御料車（鉄道記念物）は、歴代中最も豪華な車両といわれています。内外装は漆塗りで、彫刻・螺鈿・七宝・絵画など当時の最高水準の美術・工芸の技が盛り込まれています。

皇室儀装車の記念展示

〈馬のひろば〉
皇居を訪れる海外の貴賓や使節の送迎、儀式などに使用された瀟洒な馬車です。

蒸気動車の内部公開

〈蒸気動車〉
明治45年製造の蒸気動車で、わが国にはこの一両しか残っていません。

好評のおなじみイベント。

建物ガイド
普段入れない建物の内部をガイド付きで公開します。
時間（各所とも）　（所要時間　約15分）
11:00　11:20　11:40　13:00　13:20　13:40

ボランティアガイド　定期ガイド
〈正門・北口〉11:00～、13:30～
10名様以上は予約もできます。　☎0568-67-0314

開運ホール
〈千早赤阪小学校講堂〉
矢場・射的・輪投げ・サイコロゲーム、おみくじや開運グッズがいっぱい。

暗夜回廊
〈歩兵第六聯隊兵舎〉１回200円
暗闇の迷路はスリル満点！

明治のくらしよろず体験
〈三重県庁舎〉　明治のくらしを体験してみよう。

秋を満喫できる イベントいろいろ。

越中八尾のおわら踊り
11月2･3日
◎呉服座公演〈呉服座〉（鑑賞料700円）
◎町流し〈帝国ホテル前〉（無料）
◎輪踊り〈呉服座前〉（無料）
幻想的な胡弓の調べと叙情的な踊りをお楽しみください。
※呉服座鑑賞券は、名鉄主要駅および駅旅行センターにて発売しています。

明治村ウェディングフェア
9月15日
〈帝国ホテル中央玄関・聖ザビエル天主堂・岩倉ホール〉
模擬結婚式　11：00～、14：00～の2回
披露宴セットの紹介もあります。（見学無料）
お問合せ先／明治村ブライダルデスク　☎0120-78-2205

明治村写真コンテスト　入賞作品展
9月14日～11月10日 〈東山梨郡役所〉
応募総数869点の中から選び抜かれた作品を展示します。

灯台記念日
重要文化財 品川燈台 特別公開
11月3・4日
11月1日の灯台記念日にちなんで品川燈台を特別公開。

ザビエル天主堂教会コンサート
10月12日 〈聖ザビエル天主堂〉13：30～、15：00～
犬山市交流プロデューサーの音楽家、角谷豊人氏によって結成された「シュロス弦楽四重奏団」による教会コンサート。

大道商人ものうり口上芸
9月14･21･22日、10月13･14･26日、11月17･24日
〈呉服座〉12：00～、14：00～
昔懐かしい大道商人のものうりの一人芸をお楽しみください。

※催事は都合により変更する場合がありますので、詳細については事前にお問合せ下さい。

日本初のオーナードライバー川田龍吉男爵

日本最古の蒸気自動車がやってきた

自転車・自動車が初めて走った頃

10月26日～11月24日

現在の私達の生活とは切り離すことができない自転車や自動車。これらはこの百年ほどの間に急速に発展してきました。今回の展覧会では自転車や自動車が明治時代の人々にどのように受け入れられ、普及してきたかご紹介したいと思います。

写真1　壱人車

自転車の伝来と普及

日本で最初に自転車が走ったのは、江戸時代の終わり頃といわれています。明治時代初期の錦絵等に描かれている自転車は「壱人車」「自在車」など様々な名称が用いられ、車輪の数も二輪とは限らず、ペダルやハンドルもなくレバーによって動くものなどがありました。

明治時代の初めに外国からもたらされた自転車は、フランス人ミショーによって考案され、ペダルクランクによる前輪駆動で世界初の量産車となった「ミショー型」です。「ミショー型」は振動がじかに背骨に響くことからボーンシェーカーとも呼ばれました。明治二十年ごろになると、前輪と後輪の大きさが異なる「オーディナリー型」が大流行しました。前輪駆動のため前輪が大きければ大きいほどスピードがでる反面、操縦には高度な技術を要しました。明治二十五年頃には車輪の大きさが同じでペダルの回転がギアとチェーンやシャフトにより後輪に伝えられる「セーフティー型」が、そして発明されたばかりの空気入りタイヤが使用され、現在の自転車とほぼ同じものとなりました。しかし、この頃の自転車は非常に高価で、当時の掛蕎麦一杯値段の一万倍もし、個人で所有できたのはごく一部の富裕層のみで、自転車競走等も彼らの大きな楽しみでした。

自転車は十八世紀末から十九世紀末の約百年間でほぼ完成されました。自転車が現在のように身近なのりものとなるのは、第一次世界大戦の勃発で欧米の自転車生産量が激減し、国産自転車の量産化が図られてからです。

日本初の自動車

日本に初めてもたらされた自動車は、明治三十一年フランス人のテブネが持ち込んだフランス製のガソリン車パナール・ルヴァッソールです。この時は商談が成立せず、自動車は日本で試走したにとどまりましたが、当時自動車などみたこともない人々は「馬なし馬車が走った。」と驚いた様子が当時の記録には残されています。その後、数種類の自動車が日本に持ち込まれましたが、いずれも見本程度におわりました。

日本人がはじめて車を手にしたのは明治三十五年、当時横浜の横浜船渠社長を務めていた川田龍吉※男爵です。川田男爵は東京・芝口に開設されたアメリカのロコモビル社のショールームに展示されていた蒸気自動車「ロコモビル　スタンダード・スタイルNo.2」を購入し、日本初のオーナードライバーとなりました。彼は自宅から新橋駅までの通勤に使用し、運転技術はロコモビル社の社員から皇居前広場で教習を受けたとされています。蒸気自動車という名称は耳慣れない言葉かもしれませんが、当時世界の自動車は大半が蒸気自動車で残りが電気自動車、ガソリン自動車でした。蒸気自動車は蒸気を発生させるために時間がかかりますが、始動・発進・速度調節は比較的容易でした。現在のガソリン自動車はスイッチをひねるだけで簡単にエンジンを始動することができますが、当時のガソリン自動車のエンジンを始動させるには、多大な労力と熟練が必要とされ、さらに運転にも高度な技術が要求されました。当時のエンジニアたちは、ワットの発明以来完成の域に達していた蒸気機関より、未だ発展途上にあった内燃機関開発に意欲を向けることになります。

写真2　不忍池畔自転車競走之図（風俗画報178号）

自動車の普及

明治三十六年（一九〇三）三月から四ヶ月間大阪で開催された第五回内国勧業博覧会は日本の自動車産業にとって大きな転機となりました。前出のロコモビル社はじめ三社が八台の自動車を出展し、人々に新たなのりもの「自動車」の時代到来を予感させました。さらに、これと相前後して京都で乗合自動車の営業が開始しましたが、資金不足や日露戦争が開戦するなど時機にも恵まれず、一年ほどで廃業に追い込まれてしまいました。

明治四十年代に入ると上流階級を中心に自動車が普及してきましたが「明治工業史　機械篇」によると明治四十一年の国内の自動車数はわずか十二台、明治末年は約五百台。明治四十年に国産自動車が初めて製作されてから今年で九十五年。日本は現在、一年間の生産台数が九百万台を超える世界有数の自動車生産国、そして保有台数も世界二位の約七三〇〇万台です。この発展の陰には先人たちの苦労と工夫がぎっしり詰め込まれていることは想像に難くないでしょう。

※注　**川田龍吉**（安政三～一八五六～昭和二十六～一九五一）土佐（現高知県）出身。父小一郎は岩崎弥之助とともに三菱商会を起こし、後に日銀総裁となった。龍吉は明治十年から十七年までイギリスのグラスゴー近郊で造船機械技術を学び、帰国後三菱製鉄所・日本郵船勤務後、横浜船渠社長、函館船渠社長を歴任。川田男爵がアイリッシュコブラーというジャガイモの苗を輸入し、栽培をはじめたことからそのジャガイモは「男爵いも」と呼ばれている。

明治のくらしよろず体験コーナー　リニューアル！

⑬三重県庁舎一階の一室を利用して、明治村所蔵の明治から大正にかけての生活道具を展示している「明治のくらしよろず体験コーナー」がこの秋、リニューアルします。

『明治金之助くんのあさ・ひる・ばん』と題して、尋常小学校三年生の明治金之助くんと一緒に明治のくらしのほんの一部を見てみようという展示です。

"あさ""ひる""ばん"の代表的な道具をいろいろ並べて、明治時代のある一日を辿ります。中には、何だろう?と思うものや、意外や意外！昔のほうがよくできている物にも出会えるかもしれません。また、金之助くんのような明治時代の子供が夢中になった遊び道具も体験できます。百年前の日本にタイムスリップして、明治のくらしを楽しく感じてみてください。

明治金之助くんと一緒にみなさんの訪問をお待ちしています。

使うのがもったいない…!?
染付朝顔型小便器

読めるかな？
明治の教科書

どうして前輪が大きいの？
オーディナリー自転車

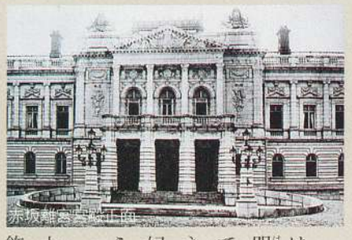
コードレスですが…
炭火アイロン

●学校団体の皆様へ

このコーナーでは、明治・大正時代の生活道具を実際に見て、体験していただける展示です。調べ学習や総合学習にどうぞご活用ください。

華麗なる宮殿家具

赤坂離宮朝日之間で使用されたサイドボード



現在国の迎賓館として使用されている赤坂離宮は明治四十二年、東京元赤坂に当時の皇太子・明宮殿下（後の大正天皇）のための東宮御所としてフランスのベルサイユ宮殿に倣って建てられたネオバロック様式の宮殿です。一階は主に殿下・妃殿下の御常住で、二階には接客用の諸室が設けられていました。

「朝日之間」は第一客室ともいわれ、フランス十八世紀末に流行をみた「ルイ十六世様式」で装飾されており、朝日之間の名はフランス人画家ペルツ指揮のもと当時一流の画家たちによって描かれた天井画「旭日と神女」に由来しています。この室内の家具・シャンデリアはすべてフランスから輸入されたもので、このサイドボードもその一つです。『明治工業史　建築篇』によるとこの部屋に置かれていた家具は革貼り椅子が大小取り混ぜ三十二脚、大テーブル一脚、サイドテーブル二脚、そしてサイドボードが二脚でした。また、『東宮御所家具設計図』によるとこの室内に置かれていた家具のデザインは余計な装飾を取り払いながらも華麗な印象を与える「ルイ十六世様式」ですが、このサイドボードに限ってはロココの雰囲気をいくらか残しています。天板は大理石、そして脚はルイ十六世様式の特徴である直線的な溝彫りではなく猫脚、鏡板は木象嵌が施された上に真鍮で華麗な装飾が施されています。

このサイドボードは博物館明治村の西郷従道邸内書斎・食堂にそれぞれ一脚ずつ展示されています。

サイドボード

スチームハンマー（蒸気鎚）

㊸鉄道寮新橋工場には現在、明治期から使われた様々な機械類が展示されていますが、その中でもひときわ大きくそびえ立っているのが3トンスチームハンマーです。明治十四年（一八八一）にイギリスのスウェッ・ガーバイド・バルカン鉄工所で製造され、明治三十三年（一九〇〇）に建てられた山陽鉄道鷹取工場（後のJR鷹取工場、兵庫県神戸市）の鍛造（※1）職場に設置されました。機械の寸法は高さ五・五八メートル、横四・四三メートルもあり、ハンマーの重量は三・三七トン、機体の重量は六・二トンで、蒸気圧力によってハンマーを持ち上げ、これを落下させて熱した金属に打撃を加えて様々な製品を造りました。ここでは、機関車（※2）や客車、貨車の鍛造部品の製造に活躍したものと思われます。

山陽鉄道は鷹取工場を建てた翌年に神戸―赤間関（現在の下関）間が全通、また、鉄道の分野全体を見ても、官設鉄道・私設鉄道ともにその営業距離数や客車・貨車・機関車数を確実に増やしていた時期でした。鷹取工場は明治三十九年（一九〇六）に山陽鉄道が国有化された後も兵庫工場や神戸工場を集約して発展し、関西の要としてその機能を発揮します。このスチームハンマーだったのです。

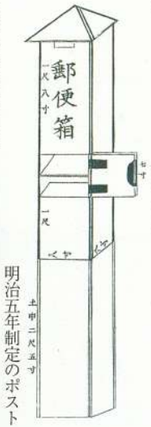
しかし、国鉄の設備近代化で引退し、昭和四十四年に明治村に寄贈されました。また、鷹取工場も平成七年の阪神大震災で被災し、工場用地が神戸市の震災復興土地区画整理事業に編入されたのを契機に、平成十二年、工場の機能は網干総合車両所に移転、その跡地は現在小学校になっています。

※1　加熱した金属素材に打撃を加えて加工すること。
※2　鷹取工場で機関車の製造が始まったのは昭和十三年。

黒いポスト

㊻宇治山田郵便局（重要文化財）の前に珍しい黒塗りポストがあります。これは明治二十年（一八八七）の逓信省公達第百八十六号により定められたもので差入れ口のふたには「郵便」「POST」と二段書きで表示され、サイズは高さ百十六センチ、一辺は三十六センチです。このポストの高さは六尺（約二百センチ）と決められ、そのうちの二尺五寸（約八十三センチ）を埋め込むよう決められていました。

日本の郵便事業が正式に開始されたのは明治四年（一八七一）。当初のポストは「書状集箱」と呼ばれ白木の四角い箱を木組みの台の上に置いた簡単なものでしたが、翌五年（一八七二）、それまでのものに代わって木製で色は黒塗り、その正面に白漆で「郵便箱」と書かれた細長い角柱型のものに改められました。黒く細長い箱の上部に小さな穴が開けてある形に加えて、「郵便」という文字を「垂便」と読み違えた田舎の紳士が公衆便所と勘違いして用を足してしまったという珍談が残っています。



明治五年制定のポスト

その後明治四十一年（一九〇八）には鋳鉄製赤塗りの円柱型のものが制定され全国に配備、徐々に黒塗りポストは姿を消していきました。

明治村の黒塗りポストは今もなお現役としてポストの役目を果たしています。ぜひこの黒塗りポストから親しい人に手紙を出してみてはいかがでしょうか。

床屋のサインポール

㊼本郷喜之床、この建物は明治末期に建てられた理髪店です。軒先に付けられた「サインポール」で一見して床屋とわかります。このサインポールは、かつて中世のヨーロッパで理容師が外科医を兼ねた「理容外科」という職業であったことに起因しています。その当時の治療の一つに瀉血がありました「身体の悪い部分には悪い血が集まる」という考えから、患者に赤く塗った棒を握らせ患部を切開し血を抜き取ります。術後、洗浄されたその棒と傷口に巻かれた包帯は軒先に吊して干され、風によって螺旋状に巻きついた様子がシンボル化され、赤白のサインポールの原形になりました。一七四五年、イギリスで外科医と理容師のユニオンが分裂。外科医は赤白、理容師はそれに青を加えることが定められました。

西洋文明の影響を受けた近代の日本の理容業に、理容技術、器具などと共にこの「サインポール」も輸入されました。明治四年、庄司辰五郎の理髪店は店先に赤白青の美しい色彩を施した看板を出して東京中の人々を驚かせました。太い棒の先には擬宝珠の形をしたものをつけ、新しい職業である理髪店の標識としました。これが日本におけるサインポールの始めといわれています。

日本においては、赤は動脈、白は包帯、青は静脈といわれていますが、当初色は赤、白、青がいろいろに使われていて、ねじりを加えたその形は「アルヘイ（有平）棒」と呼ばれていました。ポルトガルから伝来した砂糖菓子alfeloaにとてもよく似ていたためです。

明治村写真コンテスト『明治村百景』入賞作品発表

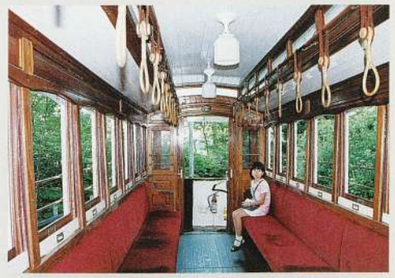
応募総数869点の中から34点の入賞作品が選ばれました。これらの入賞作品は9月14日～11月10日、東山梨郡役所2階にて展示いたします。是非ご覧下さい。

一般部門

明治村賞
「夕景」
武山 松弘

特選
「明治村からのメッセージ」西浦 義尚

特選　「二人の門出」和田 礼司



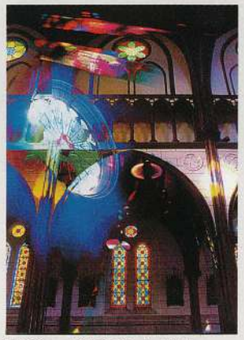
大賞　「タイムスリップ（京都市電にて）」
木村 淳

大賞　「雪の清水医院」山本 二郎

特選　「秋いっぱいの明治村」清水 光

デジタル部門

大賞　「うろこ雲と灯台」川原 恵子



特選　「歓喜（かんき）」
川口 健

特選　「光の中」森 浩

明治村写真コンテスト作品募集

〈募集期間〉平成14年7月1日～平成15年6月30日
〈部門〉　［一般部門］カラープリント四つ切写真（ワイド四つ切可）
　　［デジタル部門］A4サイズにプリントアウトしたもの
〈賞〉　明治村賞　1点　賞金10万円　大賞　3点　賞金5万円
　　特選　5点　賞金3万円　他入選、佳作を設けています。
〈応募方法〉　作品と指定の応募票に氏名、住所、電話、撮影条件（タイトル、日時、天候、使用カメラ、レンズ、フィルム、シャッタースピード、絞りなど）を明記して下さい。
　　デジタル部門では使用カメラ、画素数、加工方法を併せて明記して下さい。
※応募票は明治村公式ホームページ　http://www.meijimura.com →明治村の四季→写真コンテストからプリントアウトできます。